

令和4年度多治見市地域福祉計画評価委員会議事録

日 時：令和5年3月9日（木）

13：30～16：00

場 所：総合福祉センター4階大会議室

出席委員：海老 諭香委員、加藤 孝春委員、高木 浩二委員、
高橋 重久委員、竹内 恒夫委員、榊岡 忍委員、
山内 和泉委員（50音順）

欠席委員：加納 忠行委員、櫻井 香好委員、

事務局：福祉部長：加藤 泰治、福祉課長：大山 克則
高齢福祉課長：加藤 洋子、子ども支援課長：長谷川 昭治
福祉部課長：勝見 祐子、保健センター所長：谷口 知子
福祉課：島津 和世、前田 ひさ佳 高齢福祉課：三宅 かおり、
丹羽 智裕、大中 博、水野 浩則 子ども支援課：武井 かぐ
み、鈴木 良平、中島 あゆみ 保健センター：早瀬 かおり

1 あいさつ

2 議題

（1） 令和4年度の各計画の進捗状況について（資料1、2）

（2） 健康・福祉に関する諸計画の推進に関する意見書への取組状況（資料3）

（3） その他

○福祉課長 ただ今から令和4年度多治見市地域福祉計画評価委員会を開催する。
初めに、福祉部長より挨拶申し上げます。

（福祉部長あいさつ）

○福祉課長 委員の方に自己紹介をお願いします。

（委員 自己紹介）

○福祉課長 （会議の成立について説明の後）委員長と副委員長の選出を行う。

（委員長、副委員長を選出）

○福祉課長 ここからの議事は委員長に進行願う。

○委員長 議題1に入る前に、事務局から資料の確認と議題を説明願う。

（事務局 資料確認、議題について説明）

○委員長 議題1 令和4年度の各計画の進捗状況についてを議題とする。子ども未来プランについて事務局から説明願う。

（事務局 子ども未来プランについて説明）

○委員長 質問、意見はあるか。

○委員 令和4年度の出生数は。

○事務局 約600人。

- 委員 自分の地区では0人で小学校にあがる児童は1人しかいない。
- 委員 スクールガードリーダーの配置が「計画より遅れている」理由は何か。
- 事務局 確認し後日回答する。
- 委員 概要版にある5桁の番号は何か。
- 事務局 進行管理票の項目や重点課題を示したもの。
- 委員 項目3-2の子育てと子育てにやさしいまちの担当課に教育委員会が多いが、この項目そのものが教育委員会の事業なのか。
- 事務局 いろいろな課が関わりを持っているので、教育委員会だけの事業ではない。
- 委員 今日の会議に、各事業の担当課は来ていないのか。
- 委員長 進行管理票の計画に関わっている担当課が右端欄に掲載してあり、その担当課が様々な事業に取り組んでいる。その成果をまとめているのが子ども支援課なので、担当課は来ない。その他に質問等はあるか。
(質問等なし)
(事務局 高齢者保健福祉計画について説明)
- 委員 生活応援員育成講座の受講修了者が136人となっているが実際に活動しているのは何人ぐらいか。
- 事務局 4団体で20人位。養成講座の受講者は多いが、活動には結びついていないのが現状。
- 委員 介護されている方は介護保険の範囲でいろいろと助けてもらえるが、支援が必要な方は実費なので、未活動の生活応援員の活動を望む。
- 委員 根本地区では、4人の生活応援員がゴミ出し支援の活動を行っている。要支援者5人に対し2人しかマッチングできていない。要支援者の家から生活応援員の家が遠いためマッチングができなかったという例も多くみられる。
- 委員長 地域の現状が聞けて参考になる。
- 委員 コロナの影響で「ひまわりサロン」の存続自体が危なかったが、令和4年度から補助金がでるようになったので、活動の幅が広がり継続することができた。この他に、コロナの影響で活動が鈍くなっている団体に対して市としてどのように対応していくのか。
- 事務局 サロン活動や敬老会事業は厳しい状況が続いている。市の施設の閉鎖も重なり物理的に無理な状況であったが、外出の機会が増えるように、また、意識を高めていけるようにサロン活動の活性化を図りたい。その中でも多悠連事業のスポーツ大会には大勢の人が参加されていた。一緒に取り組んでいくという意識を持ち、社会福祉協議会も一緒になって意識を高めていくことが大切だと考える。
- 委員 サロンに行きたくても場所が遠くて歩いていけない人もいるが、市で移動手段を確保してもらうことはできないか。
- 委員 推奨はしていないが、住民達の乗り合わせをお願いしている。地域によっては乗合タクシーやコミュニティバスがある。自宅でサロン活動をやっていたりもするので臨機応変な対応をしてほしい。

- 委員 高齢者は免許返納を推奨されているが、返納してしまったらどこにも行けなくなる。みんなが集まれる場所が駅の近くにあると便利。例えば、新本庁舎に集まれる場所があるとよい。市としても配慮していただきたい。
- 委員 「あいあいサロン」では一人暮らしの高齢者を招いて昼食の提供をしていたが3年間中止になっている。令和5年度から開始しても良いか。
- 事務局 食事は飛沫感染防止のため中止していただいていた。市内部で定期的な会議を開催し、国や県の方針に則ってイベントの開催等を判断してきた。今後も県等の方針に従ってお願いすることになる。高齢者は感染リスクが高いため感染状況を見ながら再開していくことになる。
- 事務局 現在のコロナ禍が終息すれば、感染対策を取りながら開始できると思う。
- 委員長 今後は様々な活動が緩和されていくと考える。コロナ禍で会っていない人に会うことによって、その人の変化に気づくので、その変化に援助などが必要な場合は、民生委員などに伝えてもらうといい。その他に質問等あるか
(質問等なし)
(事務局 健康づくり計画について説明)
- 委員長 質問、意見はあるか。
- 委員 禁煙ステッカーを配布した飲食店に対しその後のフォローはあるのか。
- 事務局 実際には249店舗に配布しているが、アンケートを行ったりして啓発に努めている。
- 委員 高齢者にとって健康づくりは最大のテーマであるが、コロナ禍で体調管理が出来なくなった人も少なくない。今後はフレイルの予防対策が特に必要ではないか。多治見市独自のフレイルチェックや予防キャンペーンをしてはどうか。
- 事務局 各地区で行っている筋力アップ体操会場でチェックシートを活用してもらっている。令和4年度から保険年金課と高齢福祉課が一体となって高齢者のフレイルチェックと握力測定を実施している。
- 委員 握力測定は1回目を実施した人に対して3か月後にもう一度実施している。口腔機能のフレイルも重要と考える。
- 事務局 コロナ禍で今まで参加していなかった人もフレイル予防に取り組んでいけるようにしていきたい。
- 委員長 その他、質問等あるか。
(質問等なし)
(事務局 障害者計画について説明)
- 委員長 質問、意見はあるか。
- 委員 デイジー教科書とは何か。
- 事務局 デジタルの教科書のことと通常の教科書と同様のテキスト、画像を使用し、視覚障がいのある児童に理解しやすくしたもの。
- 委員 根本のイベントで優が丘が作っているシフォンケーキを販売することがあるが、これも優先調達となるのか。

- 事務局 優先調達とは市が優先的に障害者就労施設から物品等を調達することを指しているため、根本のイベントでの販売は優先調達にはあたらない。また、12月の障害者週間には、岐阜県が市内の事業所に声をかけて、多治見駅の南北自由通路で事業所の商品を販売する取組を行ったが、それも優先調達にはあたらない。
- 委員 毎月1回木曜日に開催される駅モールはどうか。
- 事務局 場所の提供はしているが、市が業務の発注や商品の調達をしないため、優先調達にはあたらない。
- 委員 公用車の洗車は該当するとのことだが、1台いくらか。
- 事務局 現在は水洗い洗車で550円だが、令和5年度には単価を引き上げる予定。
- 委員長 その他、質問等あるか。
(質問等なし)
(事務局 地域福祉計画について説明)
- 委員 地域力補助金制度を使って申請した団体はどこか。
- 事務局 滝呂地域力である。
- 委員 地域福祉協議会は地域が自ら立ち上げるものなのか。
- 事務局 13校区のうち現在は8校区に地域福祉協議会がある。13校区全部に立ち上がることが理想だが、市が強要するのではなく、あくまでも地元の地域力の気運が高まった地域について、立ち上げに向けた支援を行っていくもの。
- 委員 一生懸命に活動する地域団体だけを応援するのはどうか。福祉の平準化にならないのではないか。精華校区ももっと早く地域社協を立ち上げるべきだった。市が強く介入し目標をもって残り5地域に地域社協の設立をしてほしい。
- 事務局 令和7年度に1団体が立ち上がる予定と把握している。
- 委員 地域住民は地域福祉協議会のことすら知らないし理解もしていない。もっと周知活動をしてはどうか。地域包括支援センターとの違いもわからないので、住民に分かりやすいように周知等をしてもらいたい。
- 事務局 市や多治見市社会福祉協議会の広報等で周知に努めたい。
- 委員 高齢者には介護保険があり、障がい者には支援があるが、支援する職員の数が不足している。その点について市として何か取り組んでいるか。
- 事務局 職員不足は全国的な問題であるため、引き続き職員確保に努めていきたい。
- 委員長 本校でも社会福祉学科があり、社会福祉士等の受験資格が取得できるが学生の数は増えていない。福祉や保育などに興味を持ってくれる学生の数を増やす働きかけをしていけば、将来的に実を結んでいくので市として働きかけをお願いしたい。
その他、質問等はないか。
(質問等なし)
- 委員長 議題2 令和3年度健康・福祉に関する諸計画の推進に関する意見書への取組状況についてを議題とする。昨年度市へ提出した意見書への取組状況について、事務局から説明願う。
(事務局 資料3に基づき説明)

- 委員長 市に取り組んでいただきたい内容について、一人ずつ意見を請う。
- 委員 3年間のコロナ禍でイベントや祭りなどすべてが中止になった。令和5年度は50区すべてが積極的に外出の機会が増えるように市として働きかけをしていただきたい。高齢者や一人暮らしの方は5回目のワクチン接種も終わっている。その方達は、市からのイベント等外出機会が増えるような連絡を待っている。
- 委員 コロナ禍で活動や集会が少なくなったことで運動する機会が減ってしまった。健康推進委員として、もっと運動する機会を増やしていく必要がある。
また、健康推進委員の8割が女性なのに比べて、本委員会の女性委員は少ないのではないか。
- 委員 障がい者団体の立場として、発達障がいの人と関わりを持たないと障がいに対しての理解が進まない。現在は、心のバリアフリーが浸透しているので、ウィズコロナでも、もっと関わりを持って接する機会が増えて欲しい。
- 委員 令和5年度は、ほとんどの事業が再開されると思う。地域共生を重層的支援体制整備事業に取り入れていただきたい。
- 委員 高齢者が増えていく中で要支援者も増加している。公的なサービスだけでは要支援者を支えるのは無理な時代になってきているし、ボランティアの人達も高齢化してきているので、老人クラブでは災害時に自分の身は自分で守る自助グループがある。人生100歳時代になってきているので、支援する側を支援するキャンペーンや活動を毎年行うことが大切だと考える。
- 委員 根本地域福祉協議会では高齢者の支援としてゴミ出しを行いたい、ゴミ出しをしてくれるボランティアが集まらない。今後の課題は、ボランティア活動をしてくれる人材を集めること。
- 委員長 委員の皆さんは地域のために様々な活動をしておられるが、委員やボランティア活動だけでなく行政の後押しが必要と考える。今後は国や県の方針に従って市も活動を再開していくことになるが、誰かが取り残されてしまう社会とならないよう、自助、共助、公助の3つのバランスを保ちながら進めていただきたい。
中学生がボランティア活動することはあるが、高校生になるとボランティア活動はほとんどしない。継続的にボランティア活動ができるよう地域に関心を持つ取組を継続していただきたい。大学の話になるが、大学生は実習で、地域の人のみでなく農協や銀行で働く機会がある。それによって、地域とのふれあいの機会ができそれが就労に繋がっていくことがある。
本日いただいた意見をもとに意見書としてまとめる。最終的な意見書については、私と事務局に一任いただく。議題3 その他について事務局から説明願う。

(事務局 説明)

- 委員長 これをもって令和4年度地域福祉計画評価委員会を終了する。